

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人 なみはや		
事業所名	グループホーム 桜ノ宮 なごみ Aフロア		
所在地	大阪市都島区中野町1-12-11 アロンディール3F		
自己評価作成日	平成27年 8月20日	評価結果市町村受理日	平成28年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&JigyosyoCd=2795200027-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人様の希望や要望を第一義とし、月毎・季節ごとの各種レクリエーションの実施や団体での外出、日々の散歩などを通して個々の個性や残存機能に合わせた個別支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、「入居者様・ご家族、職員及び地域の方々全ての人の尊厳を大切に」という独自の理念の下、職員間で何でも話し合い連携しながら工夫して3つのフロアがそれぞれ特徴を出し、利用者一人ひとりのペースに合わせて生活が出来るように支援をしています。自治会に加入し古紙回収に協力したり、地域の祭りに利用者と共に参加すること等を通じて地域との交流を少しずつ深めて事業所を知ってもらい、近隣の幼稚園児の事業所への来訪が実現する等、利用者へのサービスの向上に繋がっています。日々散歩を実施し、近隣のホテルの喫茶店や商店に出掛けたり、定期的に全員で水族館へ行く等、外出の機会を多く作っています。利用者は携帯電話を使って会話を楽しんだり、通信販売で買い物を楽しめるよう支援するなど思い思いに暮らせるように支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての人の尊厳を尊重するという理念に基づき、管理者と職員で会議の場等で話し合い、入居者、家族様に接している。	新たに入職した職員には理念に込められた思いについて説明し意識付けを行い、介護計画を作成する時や普段の支援において「利用者本位に考える」ことを職員に指導しています。利用者の気持ちを考えながら言葉遣いに気を付けて声かけを行い利用者の尊厳を守ることに繋げることで、理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、祭礼や盆踊り、区民祭り等の町内の行事に参加している所である。	自治会に加入して古紙の回収に協力し、区の祭りへ利用者と共に参加したり神社の祭りの際には事業所で踊りの披露があり、地域との交流に努めています。また婦人会の方を通じて近隣の幼稚園から園児が事業所に来訪して利用者で交流する等、地域との相互の交流を深めることを利用者へのサービスの向上に繋げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、当事業所だけでは出来ていないが、地域の他の施設や団体と共に地域に発信出来るように取り組んでいる所であり、今後、都島区内の特養、GH等の懇親会に参加するなどして、実践していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内役員、地域包括職員、ご家族、理事長、職員が出席して2か月に一度開催している。ご家族の意見を聞き、又、地域の情報を取り入れ現場のサービスに反映させている。	会議は家族や地域の婦人会の方、地域包括支援センター職員、法人理事長等の参加の下2か月に1回開催し、利用者の状況の説明や活動報告、行事の案内、意見交換をしています。町内会の行事の案内をもらい参加したり、他事業所の事例を聞いて運営に活かす等、会議を支援やサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者と連絡は密に取り入れているとは言えず、必要に応じて役所に行くこととどまる。	運営上の不明点の確認や、介護保険制度関連の資料をもらいに区役所へ訪問しています。市からは認知症の実践者研修やコミュニケーション研修等の案内が届き可能なものに参加することで行政と良好な関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを常備し、職員に指導しており、対応を随時実施している。	虐待防止を啓発したポスターを掲示し、全体会議で身体拘束防止のマニュアルと事例を基に研修を実施して職員へ周知しています。各フロアにマニュアルを置き、言葉による制止が見られた時は職員間で注意合っています。各ユニットは施錠していますが外出希望の利用者には寄り添って対応し、利用者が拘束感なく暮らせるような支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護実践者講習に参加し虐待について学び、他職員にも周知・研修をしている。同講習には順次参加できるよう取り組んでいる。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aフロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を利用される入居者様はおらず、あんしんサポート等の資料は回覧し、ファイリングしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時等には入居者様及びご家族様へ説明を十分に行い、理解。納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話のあった際など、随時報告を行っている他、運営推進会議の開催時に入居者様、家族様の意見、要望を承り対応している。	請求書等を家族へ送る時に事業所だよりや運営推進会議の議事録を同封し利用者の普段の様子や連絡事項を伝達して意見が出やすいように工夫し、意見箱や面会の来訪時に家族から意見を聞いています。洗濯物の間違いがあったと家族から意見をもらい職員へ注意を促し改善に繋げる等、得られた意見を運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も参加する全体会議を毎月設け、職員の意見や提案に限らず、疑問、不安等様々な事を話し合う機会を設けている。	月1回の法人理事長が出席する全体会議で直接へ意見を出し、各フロアでの会議では運営方法の疑問や不安、利用者毎の支援方法、業務の効率化について話し合っています。日々の申し送りの時や利用者の様子を見て気付いた事があれば施設長が職員へ声をかけて意見を聞いています。職員は広報や環境等の委員を担当し担当の委員としても意見を上げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議、懇親会を設ける事で職員の意見、悩みを聞き、対応する事で仕事に対するモチベーションを維持している。又職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、昇給、賞与の査定を積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の全体会議やフロアミーティングで、各種の研修や講習会を開催し意見交換をしている。また、外部研修は、認知症実践者研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流があるグループホームにおもむき、見学、話す機会を設けて研鑽する機会としている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aフロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に数回に渡り面談を行い、家族様及び本人様には見学を通して、当グループホームを理解して頂き、不安が出来るだけないように努め、アセスメントを行う事で要望等を確認するように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の様々な意見や要望を拝聴できるように対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の話を伺い、他職種からの意見も参考にした対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じ、日常生活の一部(洗い物等)をお手伝いいただく等、役割を持って頂いている。又、食事を一緒に取ったり、ゆっくりと談話したりして過ごす時間も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	旅行やイベントへの参加をご家族様へ呼びかけ賛同して頂いている。また、外泊や外出等にも随時対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当施設へ面会は可能な限り、自由にして頂いている。その方が行きたい馴染みの場所には、家族様と話し合い、協力して外出できるよう配慮している。	友人の来訪が多く、来訪時に共用空間や居間で椅子を準備したりお茶を出して利用者と一緒にゆっくり過ごせるように支援しています。外出行事で利用者の地元の商店街に出掛けたり、家族対応で墓参りや、家族の見舞い、1泊2日で温泉等に出掛けています。利用者が家族と外出する際の準備の支援をする等、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で話しが出来るように機会を設けている。食事以外の時にもフロアへ案内して、カラオケや生け花等のレクリエーションをする事で利用者様同士の絆が出来るように心がけている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aフロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合であっても必要に応じて相談していただき、また、他サービス利用の希望時にはこれに関しての情報提供等のフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の自己決定を尊重しケアに努めている。困難な場合は、今までの生活歴や性格、趣味など家族から情報を得て、できる限り本人様の立場に立ったケアに努めている。	入居時に家族から意向や希望、趣味、生活歴等を聞き書面に記入し、職員間で共有しています。利用者の状況や状態に応じて質問方法を工夫して意見や希望を聞き、普段の利用者の様子から得意な事や思いを把握するように努めています。申し送り時に利用者の気付いた事があれば職員は話し合い、思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様及び家族様には十分な聞き取りを行い把握に努めている。必要に応じて、在宅時のサービス関係者や介護支援専門員等に情報提供を依頼する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、本人様の状態を把握し、介護日誌に記録し、全員が確認し、申し送りを確実にやっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロアでミーティングを行い、必要に応じて家族様、関係者とも話し合い、計画作成するように努力している。	アセスメントを基に作成された介護計画は、3か月毎に評価を行い6か月毎の見直しを基本とし、状況に変化があれば都度見直しています。見直し時にはサービス担当者会議を開き、施設長やケアマネジャー、フロアリーダー、担当職員等で話し合い事前に聞いた家族や協力医、看護師の意見を反映して家族の了解をもらい見直しています。	介護計画の見直しの際には、利用者の変化や現状について再アセスメントを実施されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を活用し、介護経過に残し、定期的にモニタリングを行い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様のニーズにできる限り対応している。買い物や外食を希望されている方がいる場合、職員が同行・付き添うなどの対応をしている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aフロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めており、地域包括から紹介を受け、ボランティア団体、有志者を招き、施設を地域の憩いの場となるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の連携医療機関についての説明をし、今までの本人様のかかりつけ医との選択をして頂き本人様、家族様がどの様に医療を受けたいのかも、聞き取りを随時行っている。	協力医又はこれまでのかかりつけ医の選択が可能なことを説明し、協力医からの週2回の往診を受け受診結果は家族へ連絡しています。利用者の状態に変化があれば24時間対応の訪問看護師に連絡し指示を受けています。専門科のかかりつけ医へは継続して受診し、利用者の希望や状態により訪問歯科を受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の在宅看護師と日常の状態について、訪問時や電話連絡にて相談・指示を仰いでおり、訪看申し送りにて記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には入院時の24時間付き添い等安心して治療できるよう対応している。入院時には看護サマリー、介護サマリーを作成し情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とともに主治医や看護師、職員を交えて話し合いの場を設け、終末期びあり方や看取り介護の実施等について説明・理解をいただくこととしている。	入居時に家族へ重度化や終末期の対応指針にそって説明し同意を得ています。これまでに看取りの経験はありませんが、状態が進んだ際に家族の意向を確認し、職員や主治医と相談して支援の内容や体制を決め取り組んでいます。職員へは看取り支援についての研修を実施する予定としており、不安なく取り組めるように計画しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についてのマニュアル作成している他、消防署主催の応急手当の講習会にも積極的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、内1回は消防署の立会いの下に実施している。	訓練は年2回、内1回は消防署立会いの下それぞれ昼夜を想定し、通報や避難誘導、初期消火等の訓練を実施しています。食料等の備蓄を置き、災害に備えています。運営推進会議で地域の防災の情報をもらい、防災訓練へ職員の参加を検討しています。	地域の防災体制を確認しながら地域との防災面での協力体制の構築に向けての取り組みに期待します。

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aフロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重と言葉使い等の接遇については機会あるごとに指導している。	職員には専門職としての意識を持ち対応するように申し送りの時に伝達し、指示や命令調、冷たい敬語での声かけにならないように指導しています。問題のある声かけが見られた時にはフロアリーダーを通じて指導しています。排泄時にはタオルを掛けたり、入浴時の同性介助も実施し利用者のプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情やお話を十分傾聴した上で、思いや希望を推察し、利用者様に決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを基本とし、その日の気分や体調の合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容の支援のほか、定期的な訪問理容を利用していただくなど、ご本人様の意向を確認しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳に工夫をするほか、可能な入居者様には、食事の準備や片付けを手伝って頂いている。また調理方法についても意見を頂き、一緒に調理をしている。	食事は業者が立てた献立をもとに食材やレシピが届き職員が調理しています。利用者により野菜を切ったり、盛り付けや洗い物等できることに携わってもらい、食事時は職員も食事介助しながら同じ物を食べています。月1~2回程度は業者の献立を止めて季節の食事を作ったり、週に1回ホットケーキなどのおやつを手作りしています。外食で回転寿司やフードコートに出掛け、変化のある食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の納入や調味料の使用を含めて食料業者に委託し、栄養バランス、カロリー管理を行っている。又、管理栄養士の訪問時には栄養指導のもと、個々の状態に応じて随時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科による衛生管理をしている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aフロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ等の使用にあたっては入居者様及び家族様と話し合い、排泄状況に適したものをを選び使用していただいている。又、入居者様の訴えや、排泄周期に合わせてトイレ案内している。	排泄の記録を取り、利用者ごとにパターンを把握して利用者に応じた声かけや支援をしています。入居時おむつを使用していた利用者にも紙パンツとパッドに換える等、排泄用品の必要性を検討しながら自立や排泄状況の改善に向けて取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分摂取により排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を優先に対応しているが、判断できない利用者様に関しては、声かけしながら本人の状態確認し、気分良く入浴できるようにしている。	入浴は利用者毎に週2回の間隔となるように午前・午後の時間帯を決めて支援しています。利用者の希望により毎日の入浴にも対応しています。入浴拒否が見られる利用者には、声かけのタイミングを工夫して無理強いせずに入浴してもらっています。入浴剤を使用したりゆず湯の実施、利用者の好みのシャンプーを使用するなど入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを基本とし、日中の休息や就寝時間の工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が薬の目的や用法等について理解できるよう薬状を確認することとしている。また、確実な服薬確認と服薬介助を実施するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や書道、音楽会、外食、外出など様々は行事に参加して頂きながら、その人自身の楽しみが見つけられる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を含むご本人の希望には可能な限り対応している。	日々散歩を実施し、計画表を作成し利用者により片寄りが無いように公園等に出掛けています。近隣のホテルの喫茶店や商店に出掛けたり、季節の花見に出掛けて外で弁当を食べ楽しんでもらっています。1～2か月に1回は外出行事を企画し全員で水族館や資料館等へ外出したり、協力医療機関のバス旅行に利用者と共に参加する等、外出の機会を作っています。	

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aフロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人様に管理して頂き、買い物等もして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月、ひな祭り、夏祭り、クリスマス等季節感のある飾り付けを心掛けている。 また、適切な冷暖房・加湿等の実施により空調管理にも配慮をしている。	廊下やリビングに利用者の習字やぬり絵、季節の作品、行事の写真等を飾り明るい雰囲気を作り、利用者同士の相性等も考慮して椅子やテーブルを配置しています。リビングでは大きいソファを配置しテレビ等を楽しめるようにしています。温湿度計や加湿器、サーキュレーターを設置し温湿度管理を行い、毎日掃除して快適な共用空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内では、御自分の席が決まっており、その場所が一番落ち着いて過ごせる場所になっていると推察される。またリラックスしてTVを見たりスタッフと談話したりできるようにソファも用意しているところである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様の使い慣れたものや馴染みの物等をご持参していただき、ご本人様に馴染みのある落ち着いた空間作りに配慮している。	居室には椅子や机、ローボード、ぬいぐるみ等の使い慣れた物を自由に持ち込んでもらい、家族と職員が相談して配置をしています。清潔保持にも努め、携帯電話を使用して通信販売を楽しむ方がいたりラジオやテレビを楽しむ等、その人らしく過ごせる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の居室やトイレの場所の標記については分かり易いものとし、またフロアの模様替え、家具の配置等については動線に注意している。		